

緑の相談所だより

- 58号 -

1999. 6. 1発行 編集：財団法人旭川市公園緑地協会旭川市緑の相談所

山野草の育て方

日時 6月13日(日)
午後1時30分
～3時30分
講師 北海道山草趣味の会
会長 村田悠治さん

定員 50名 参加料 無料

同時開催

山草展示会
6月12日(土)、13日(日)
緑の相談所ロビーにて

庭木類の挿木・接木

日時 7月11日(日)
午後1時30分
～3時30分
講師 旭川市緑の相談所
相談員 小島博昭

定員 50名 参加料 無料

バラの管理

日時 6月27日(日)
午後1時30分
～3時30分
講師 旭川市緑の相談所
相談員 佐野元雄

定員 50名 参加料 無料

親子で楽しむ押し花絵づくり

日時 7月27日(日)
午後1時30分
～3時30分
講師 柳川押し花
谷口燿子さん

定員 30組(親子で)

材料費 500円(1組)
(当日ご持参ください)

持ち物 ハサミ、ピンセット、文ちゃん

お申し込み・お問い合わせ 旭川市緑の相談所 ☎65-5553

多数の皆様のご参加をお待ちしています。



こんなところに病気や害虫は出る 部位・症状別診断法

花や果実



注意

- 1 害虫は葉の表よりも葉裏に多い
- 2 ナメクジは鉢やプランターの底に隠れている
- 3 アリがいるところにはアブラムシがいる

病害虫の発生しやすい条件、時期は？

灰色かび病、菌核病などのかびによる病気は、多湿で適度な温度条件下で発生します。発生時期は春と秋です。例外はうどんこ病で、やや乾燥した条件下でも発生します。軟腐病などの細菌による病気は、高温下の、泥はねのある場所で発生します。夏に多い病気です。

モザイク病などのウイルスによる病気は、アブラムシなどのウイルス媒介者によってうつる場合が多いので、春から秋にかけて発生します。

ハダニは、乾燥または雨の当たらない条件下で発生します。野外では3～9月に、室内では一年中発生します。

アブラムシやコナジラミは、チッ素肥料が多い条件下で発生する傾向があります。3～11月に発生します。

アブラムシ、ハダニ、コナジラミなどは苗とともについてきたり、風に乗って飛んできたり周辺の植物から移動してきたりします。

あ
な
た
が
ド
ク
タ
ー

家庭菜園夏の手入れ (6~7月)

トマト

- ・わき芽とり ~ 葉の付け根から盛んに新芽を伸ばしてきます、早めに欠きとります。
- ・摘果 ~ 大玉種では形の揃った実を5個残し他はとります。
ミニ種では収穫の始まった房の先に開花中の花を摘みます。
- ・摘葉 ~ 収穫の終わった房の下の古い葉をとります。
- ・追肥 ~ 最初の実が5cm程に太った頃速効性の化成肥料を1株20g程度葉が元気で盛り上がったような状態であれば不要

ナス、ピーマン、ナンバン

- ・整枝 ~ 枝分かれした太い茎の下部の葉の基からでる側枝をとります。
混み合う枝は光線が中まで入るように、細い方の枝をとります。
- ・摘果 ~ 太りの遅い実は摘みとります。(次の実の太りが早まります)

キュウリ

- ・整枝 ~ 下の葉6枚目までの側枝と実はとります。各葉の基から伸びる側枝は葉2枚を残し先を摘みます。支柱以上に伸びた先の部分は摘みとります。
- ・追肥 ~ 収穫が始まった頃から20日に1度化成肥料1株20g株の周囲に

カボチャ

- ・整枝 ~ 下部から伸びた側枝2~3本を伸ばし、他の側枝(孫枝)は全てとります
- ・授粉 ~ ムシが飛ばないように日に咲いた雌花には、人の手で雄花の花粉を着けてやります。開花日に雨が予想される場合前日に雌雄両方の蕾に袋をかけておき雄しべ雌しべを濡らさないようにします。

秋ダイコン、ハクサイ

- ・種まき ~ 7月下旬にはまき終わります。株間50cm×40cm

野菜の生育(障害)診断

症	状	原	因
害虫	若い葉が巻き込む 葉が黄ばむ 葉に穴があく	アブラムシ ハダニ ヨトウムシ等	~常時発生 葉の裏、新芽部分に密生 ~暑く乾燥した時に発生 ~蛾や蝶が飛び回っていたら用心
病気	葉の表面に白い粉 葉に褐色の斑点 葉が萎れて枯れる	うどん粉病 たんそ病、べと病、なつえき病など えき病、いちょう病、つる枯病など	~カボチャ、キュウリに多い ~雨の後に多い ~連作畑に多い
その他	トマトの尻腐れ 曲がりキュウリ 実がとまらない 実が太らない	肥料過多(石灰分不足) 風や病気で葉を傷つけた 寒さや雨で花粉が働かない	~葉が繁りすぎたような状態 ~誘引を確実に、早めの摘芯 ~人工授粉、 肥料過多で繁りすぎ。受粉していない
害虫	~殺虫剤(オルトラン、スミチオン等)		適期に、記載してある倍率、 使用安全基準を厳守して使用
病気	~殺菌剤(ダイセン、ダコニール等)		

鈴 懸 の 径 (スズカケのミチ)

「鈴懸の径」。いかにもロマンチックなタイトルである。恋人と連れ立って歩く小道であろうか。

昭和17年、灰田勝彦がヒットした歌である。それよりも戦後になってからクラリネットの名プレイヤー（鈴木章治とクインテットだったように思う）が、ワルツのリズムを軽やかに品のいい都会的なセンスで気持ち良く吹いていたのが印象に残る。当時のしゃれた若者たちの心を捉えた曲である。

鈴懸は和名スズカケノキのことで、いまではブラタナスの名のほうが通っている。ブラタナスも響きのいい名であるが「鈴懸の木」にはロマンティシズムを感じる。

このロマンの「鈴懸の径」は身近な所にある。神楽岡公園の森に沿って緑が丘の町並みを通り抜ける道の街路樹がスズカケノキ、いわゆるブラタナスの並木である。

この通りは旭川市民は勿論だが外部から来た人には大層人気がある。

それはこの通りのトンネルのようなブラタナス並木が素晴らしいからである。おりおりにこの通りをゆっくり歩いていただきたい。一人でも、また気の合った人とでもいい。恋人同志ならなおいいのだろうが・・・

ただこの通りは車も結構多いので少々わずらわしいが、神楽岡公園の森にそっているので気持ちよく散策できる。



スズカケノキ



モミジバズカケノキ



アメリカスズカケノキ

スズカケノキ（鈴懸の木）は明治時代にヨーロッパから入ってきた。いまみられるのはアメリカスズカケノキとの雑種、モミジバズカケノキということである。

花は春、枝先から長い柄を伸ばして咲くが、雌花と雄花は別々の枝につき実は秋になると熟して直径4センチほどの球形となり、鈴をかけたようにたれ下がる。これが名前の由来である。

この実は落葉後も枝に残るので見つけやすくなる。

5月になっても下がっていることが多い。この実はあまり剪定しない木によく着くので神楽岡公園通りの並木にはたくさん着いているはずです。

スズカケノキにもちょっと困ったことがある。秋になると大きな葉がたくさん落ちるので、この並木に画したお宅では落ち葉の始末が大変なのだ。

でも人々の目を楽しませ市民の自慢の並木だからどうか我慢をして可愛がっていただきたいものである。

